

お
ぼ
ん



御同朋の社会をめざす運動(実践運動)
兵庫教区委員会

「まこと」のひとつかけらも
ない私に
仏さまから
差し向けられた「まこと」

The Buddha directs Truth to me,
someone who does not possess even a shard of it.

真宗教団連合2023年法語カレンダーより



ご縁を慶び、お念仏とともに

親鸞聖人御誕生

850
立教開宗
00

兵庫教区・本願寺神戸別院

親鸞聖人御誕生850年
立教開宗800年

慶讃法要 期日

令和6(2024)年
5月16日(木)~19日(日)

4日間

『心にとどいたやさしい風』

浄土真宗にとつてお盆とは、阿弥陀如来あみだにょらいのみ教えにであう大切なご縁えんです。今から数十年前、とある地方新聞に女性が小学生であった頃を振り返って書いた作文が掲載されていました。内容はお盆参りの思い出についてでした。

少女の家はお寺です。毎年お盆になると、ご門徒もんたのお宅に一軒ずつお参りをしていきます。その日は朝から太陽が照りつける暑い日でした。緊張しながら一軒ずつ丁寧にお勤めつとをしています。

お参りも順調に進み、日も傾きかけた頃、ようやく最後のお宅に到着しました。しかしその時、彼女の心にくつと魔が差します。そのお宅はお婆さんが一人で住んでいらつしやいました。「あ、この家には前にも来たことがある。クーラーもないし、扇風機もない。暑いなあ。疲れたなあ。早く終わらせて帰ろう……」と思いながら緊張の糸が切れた状態でお勤めを始めたというのです。無理ありません。朝から何軒もお参りをし、きつとのどもカラカラで、足も棒の样だったでしょう。

しばらくするとお経を読む少女の背中に、心地よい風が吹いてきました。その優しく爽やかな風はお経が終わり後ろを振り向くまでずっと吹いていました。なんと、お婆さんがずっと団扇うちあを仰ぎ続けていてくださったのです。それを知った時少女は胸がいっぱいになりました。きつと自分だって暑いだろうに、手を休めたいだろうに、私のために……話している間もお婆さんは団扇をおおぐ手を止めませんでした。

そして「暑かったろ、ごめんね。今日はありがとうね。来年もまた来てね」と笑顔で何度もお礼を言われたそうです。

お婆さんの心を受け止めた時、少女はなんとありがたい事だろうと思い、自分の事しか考えられなかった事が恥ずかしく感じたと綴られていました。

親鸞聖人しんらんしょうにんは阿弥陀如来のまことの心をこの身にいただければ、ただ嬉しいだけではなく、かたじけないもつたいたい、お恥ずかしいという心が出てくる、とおっしゃいます。これを悲喜交流ひきこうりゅうといわれます。私を喚び続けてくださる阿弥陀様がありがたく、もつたいたいです。

私たちは阿弥陀様のお救いが聞こえる所にご縁をいただきました。お盆を通して、お念仏ねんぶつを申しながら喚び続けてくださる仏様を思い、また喚び続けられている我が身を振り返らせていただきたいものです。

ぜひお盆はご縁あるお寺にお参りをし、そのお救いを共々にお聞かせいただきますように。



揖龍東組圓福寺 福岡智哉